

# 全労連社会保障闘争本部ニュース

## NO.150

全労連社会保障闘争本部発行

2021年3月11日

## 安心して働き続けられる支援と整備は必須！



3月4日（木）、全労連、社保協、医団連（保団連・全日本民医連・医療福祉生協連・新医協・医労連）、医療三単産（医労連・自治労連・全大教）が、新型コロナ対策拡充・いのちまもる社会保障の実現を目指して『3.4「いのち署名」国会請願意思統一集会』と国会議員要請を行い、全国から集まった**24万4600筆**の署名を提出しました。

意思統一集会には、約**300人**が参加（オンライン参加者含む）。**13人の国会議員**が激励に駆け付けました。当日は、衆議院参議院あわせて**443人**の国会議員を訪問し新たに**2人の署名紹介議員**が増え、計**115名**（3月4日時点）となりました。

主催者を代表して、**小畑雅子議長**（写真上）が挨拶。安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための声があがったことで、紹介賛同議員が**113人**・自治体決議は**153**になっている、通常国会での請願採択をめざそうと述べました。

集会では、**日本医労連森田進書記長**が、この間の経過報告と今後の取り組みを報告。医療体制削減の中、医療経営者と医療従事者のがんばりで国民の命と健康を支えてきたが、コロナウイルスの発生に伴い、脆弱な体制が顕著になり、医療崩壊が現実化となってきた、社会保障の予算拡充は必要だと強調しました。

各地の運動・取り組みでは、**424 共同広島**の門田有人さんから、「いのち署名はがき」の取り組み（写真参照）、**大阪府職労**・小松康則執行委員長は、保健師など当事者のリアルな声をS

NSで発信した結果、「地域住民の命と健康を守りたい 保健師、保健所職員を増やしてください」署名が6万4000を超え集約。『声を上げる』ことの重要性を報告しました。

看護師・保健師・介護士からは、コロナ禍の下で切迫した現場の実態が報告されました。

退職者相次ぎ悪循環になっている、激務で疲労感が強く、辞めたいと思っている、医療従事者が感染したため、人手不足から夜勤が月9回になっている、長時間労働が蔓延している、介護の現場は密着が避けられず、コロナ対策をしてもクラスターが多発している。職員の緊張状態は長期化し限界を感じて退職する人が増えている。訪問介護事業所ではヘルパー7人が退職したため、新規利用者を受け入れることができなかった。ヘルパー自身の高齢化から、家族から「新型コロナに感染する重症化する可能性があるから、仕事を辞めてほしい」と言われた人もいる。求人を出しても応募者がいない。安心して働き続けられる支援と整備が必要。こんな低賃金では働き手は増えない。等々、厳しい状況が報告されました。経営側からは、医療・介護従事者の精神的負担が大きく、退職による人員不足から事業継続が厳しい、財政支援が必要。小児科の医師は、受診抑制に伴う収入減。1日の受診が5人以下になるところもある、減収補てんが必要だと訴えました。

左【424 共同広島：いのち署名はがき】・右【大阪府職労：地域住民の命と健康を守りたい保健師、保健所職員を増やしてください】



地域住民の命と健康を守りたい  
保健師、保健所職員を  
増やしてください

呼びかけ人：大阪府関係職員労働組合

賛同者 **64,066** 人  
2021年2月24日12時現在  
※キャンペーン開始：2020年4月1日

change.org

「いのち署名」の目標は、全体で300万筆です。5月20日の署名提出行動に向けて引き続き、共にがんばりましょう。

全労連のHPにアクセスをすると、「いのちを守る学習動画」(8分47秒)・署名(PDF)・プラカードが掲載されています。是非、ご活用ください。

<http://www.zenroren.gr.jp/jp/kurashi/index.html#covid>

3月11日(金) 時点紹介賛同議員は **121** 人